

第3回 下野市男女共同参画推進委員会会議録

日 時 平成19年4月23日(月)午後1時30分～午後3時55分
場 所 下野市役所国分寺庁舎304会議室
出席委員 陣内雄次会長、渡辺欣宥委員、三村政子委員、高山洋子委員、上野秋江委員、
榆木悦夫委員、黒須智子委員、山口容子委員、久保田国枝委員、横溝トシ子
委員、郷間誠委員、長井美枝委員、中川美恵子委員、小幡洋子委員
欠席委員 生井輝夫委員、松本文男委員、平出文子委員、田辺伸一委員、増古武一委員
出席者 篠崎第一分野副市長、野口総務企画部長
事務局 (企画財政課)
篠崎課長、小口主幹兼課長補佐、長主幹、濱野副主幹、古口主査、川俣主査、
坂本主事
傍聴人 なし

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
- 4 閉会

会長挨拶

前回の委員会から、大分時間が経っています。思い出しながら進めたいと思います。本日は、アンケート結果も出ているようです。活発な議論をお願いします。

議事

会議録署名委員の指名

(陣内会長) 議事に入る前に、会議録署名委員の指名をさせていただきます。榆木委員と高山委員をお願いしたいと思います。

1) 前回会議録の確認について

(陣内会長) 前回の議事録で、ニュアンスが違うものがないかの確認をお願いします。

(久保田委員) 意味合いは同じですが、議事録の語尾が強すぎます。断定的な言い回しよりは「です・ます」調をお願いします。質問内容が強く感じます。

(陣内会長) 今後は「です・ます」調をお願いします。他になければ議論に移ります。

2) 下野市男女共同参画プラン策定に係る市民アンケート結果報告

(陣内会長) 次に、市民アンケート結果の報告です。事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料2「男女共同参画プラン策定に係る市民アンケート集計結果報告書」について、単純集計の結果のほかに、年齢等による比較・分析も行いましたが、時間が限られていますので、概要版としてまとめた資料1で説明します。なお、アンケート調査項目AからE(A 就労、B 仕事、C 男女が安心して健康に暮らせる環境、D 男女共同参画に対する意識、E 市に要望する施策)が互いにリンクしているため、資料1の概要版では、新たに5つの視点でまとめ直しました。そのため、調査項目の順番と合っていないことをご了承いただきたいと思います。

男女共同参画プラン策定に係る市民アンケート調査結果(概要版)を中心に説明(資料1)

- ・1ページ、調査の対象は18歳以上の市民で、男女1,000人ずつ、合計2,000人に対して実施しました。
- ・全体での調査票の回収率は39.0%でしたが、女性の方が回収率が高い結果となりました。年齢構成は、29歳以下、70歳以上の割合が若干低くなっていますが、その他の年齢層は10%台後半以上です。

<男女共同参画に関する課題について>

(1) 男女共同参画への意識改革

- ・3ページ、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思うかを質問した結果、全体では、賛成の意見が反対の意見を上回っていました。男女別に集計すると、男性では賛成が上回っていたのに対し、女性では反対が上回っていました。このことから、男女間に考え方の違いがあること、また、女性の方が、男女共同参画に対する意識が高いことが分かりました。
- ・女性が仕事を持つことに対する考えを質問したところ、子供が小さい間は子育てを優先すべきという回答が半数近くを占めていました。次いで、子育てと仕事の両立を図るべきとの回答でした。このような傾向は、男女別に見た場合も同様であったことから、女性が仕事を持つことに対して、男女間の意識の差はあまりないと考えられます。
- ・4ページ、グラフ中の項目にあるような、男女共同参画に関する言葉や内容を知っているかを質問したところ、内容に対する認知度は、「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」の順に高い結果となりました。しかし、「育児・介護休業法」を除くと、男女共同参画に関する言葉に対する認知度は、女性のほうが低いことが分かりました。中でも、「男女共同参画社会」に対する認知度は、男性と比較して大きな差がありました。
- ・以上のことより、男女共同参画に対する認知度は、男性のほうが高いこと、一方で、男女共同参画に対する意識は、女性と比較すると低いことが分かります。

(2) 人権の尊重と意識改革

- ・ 5 ページ、子供の育て方の方針について質問したところ、全体では、「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」との回答が、半数近くを占めていました。次に、「女の子も経済的自立が、男の子も家事ができるように育てるのがよい」であり、「男らしく、女らしく」というジェンダー観は相対的に少ないといえます。しかし、男女別にみると、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」との回答割合が男性で高く、女性では低いことから、女性の方が、男女平等教育の推進に対する意識が高いことが分かりました。
- ・ 6 ページ、グラフ中の項目にある行為がドメスティック・バイオレンス(DV)にあたると思っているかを質問したところ、殴る・蹴るなどの身体的暴力については、過半数が認識していましたが、避妊に協力しないという項目や、精神的暴力のうち、働きに行かせない、外出等を細かくチェックする、という項目では、過半数に達していない結果となりました。また、男女間で比較すると、すべての項目で、男性のほうが女性よりも認識率が高い結果となりました。また、男性では、すべての項目で「知っている」との回答割合のほうが高く、女性では、3項目について、「知らなかった」との回答割合が高くなっています。これらのことより、男性の方が、DVについての認識が高いことが分かりました。

(3) 家庭での男女共同参画

- ・ 7 ページ、役割分担することが望ましい家事についての質問をしたところ、「家族の世話・介護」「育児・しつけ」「子どもの教育方針」の順に、望ましいと考えていることが分かりました。これらの項目では、実際に役割分担している割合が比較的に高くなっています。また、分担が望ましいとする回答割合が、女性の方が男性よりも高い項目は、先ほどあげた、保育や介護に関する項目や、家具等の修理、地域活動への参加などであり、実際に役割分担している割合が比較的高い項目が挙がりました。
- ・ 8 ページ、育児休業や介護休業については、男性も女性も、大半の回答者が取りたいと回答していました。しかし、男性には、「取りたいが取れる環境にない」との認識が女性と比較して強くなっています。

(4) 仕事での男女共同参画について

- ・ 9 ページ、現在、何らかの仕事をしているかを質問したところ、仕事をしているとの回答が全体で約7割を占めていました。しかし、仕事に従事している割合は、男女間で差がありました。
- ・ 次に、仕事をしている回答者に、職場での男女の扱いが平等になっているか質問したところ、幹部職員への採用、昇進・昇格で、男性優遇の傾向にあることが分かりました。

(5) 男女とも健康に安心して暮らせる社会

- ・ 10 ページ、ドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたりしたことがあるかという質問をしたところ、暴力を受けたことがあるとの回答が、女性で1割を超えていました。身近に暴力を受けた当事者がいるとの回答は全体で15%を超えており、ドメスティック・バイオレンスを認識していない潜在的な被害者を含めると、15%以上の市民がドメスティック・バイオレンスに関わったと考えられます。

<参考資料> 男女共同参画の推進に対する市民意識

- ・ 11ページのグラフは、昨年度、20歳以上の市民10,000人を対象に実施した、「下野市総合計画策定に係るアンケート調査結果」より抜粋したものです。これまでの市の取り組みに対する満足度を5段階で評価する設問と、今後力を入れてほしい行政施策を全41項目から3つ以内で選択してもらう設問に対する回答結果を示しています。調査結果より、男女共同参画の取り組みに対する満足度の平均は-0.5と低く、重要であるとする市民の割合も、0.5%と最も低いことが分かりました。
- ・ 以上のことより、客観的にみると、市民の満足度・関心度とも低く、早急に改善してほしいと考える市民は少数にとどまっています。しかし、満足度・関心度がともに低いからこそ、啓発などを進め、男女共同参画についての理解・関心を深めていくということが重要であると考えられます。今回のアンケート結果より抽出された下野市としての課題や、説明できなかったアンケート結果等も踏まえてご議論いただければと思います。

(陣内会長) アンケート内容の概要について、説明いただきました。アンケート結果に対する質問を受け付け、その後、会場のレイアウトを変えて、下野市で考えていかなければいけない男女共同参画に関する課題などを自由討論、意見交換したいと思います。まずは、アンケート結果に関する質問や確認したい事項、感想などを受け付けたいと思います。

(渡辺委員) 参考資料では、満足度の平均と重要度の割合が示されているという説明でしたが、参考資料内の、たとえば「防災」はグラフが4つに分かれています。これはどういう意味でしょうか。

(事務局) 項目が見えやすいように文字を大きくしたため、すべての項目について表示されていないようです。申し訳ございません。

(渡辺委員) わかりました。違う項目があるということなのですね。消防・防災の下の消えてしまった項目は何だったのでしょうか。棒グラフが長くなっており、重要度が高いようですが。

(陣内会長) あとでわかりましたら、事務局よりご報告ください。

(横溝委員) 現在は、企業でも仕事と家庭の両立や子育て支援などを行っています。また、20年前から男女雇用機会均等法も施行され、男性のほうが企業に従事している割合が高いので、男性の男女共同参画の認識度が高いことは理解できますが、女性の方が、関心が低い、認識が低いというのは意外に思いました。女性こそ男女共同参画を勉強し、声を上げなくてはいけないのに、公的な女性保護に関する法を認識していないのは残念です。事務局からの説明で最後におっしゃっていましたが、啓蒙・啓発に力を入れていくべきだと思いました。アンケート調査は大変なご苦勞であったと思います。

(小幡委員) 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつける」など、アンケー

トの内容が少し誘導的な感じを受けます。アンケート項目も設問の内容の幅が狭いように感じます。各設問項目はどのような意図があってこのように設定したものなのでしょうか。

- (事務局) アンケートの設問項目については、以前にこの委員会でもご議論いただきました。既に項目内容は検討済ということになっているはずです。
- (陣内会長) アンケートは私もよく実施しますが、完璧なアンケートはできません。アンケートを行った後で、別の質問項目も設定しておけばよかった、などということはありません。質問内容は、以前にこの会議で総意として決定しています。しかし、質問項目については今後、今回のようなアンケートを行うようなことがあれば、事務局のほうでも注意していただきたいと思います。
- (上野委員) DV について、女性の方が、それぞれの問題行為を DV だと感じておらず意識が低いのは意外でした。
- (陣内会長) アンケートは男女間の意識差を見ていますが、男女差だけでなく、年齢差もあるのではないのでしょうか。
- (渡辺委員) DV の被害に遭った回答者が全体で 1 割ということですが、男性も 4.0%です。暴力を振るったことがあるという割合も 8.4%ですが、下野市で男性が暴力を受けたことがあるという数字が出てきたことに驚きました。アンケート回答者の数が少ない割に 4.0%もいます。女性に対する啓発が必要だとの意見が先ほどありましたが、男性側の観点から重要視してみたいと思いました。
- (陣内会長) みなさんからみて、全体の印象はいかがでしょう。
- (渡辺委員) 全体の印象は掴みきれません。
- (陣内会長) 年齢別の回収率は 20 歳代以下、70 歳代以上が若干低く、ほかの年代は 20% 近くになっています。この年代別の回収率も男女共同参画意識の関心度を表しているのではないのでしょうか。
- (高山委員) 30、40、50 歳代は、男女共同参画に関心があり、また社会的な立場もあって市のアンケートに協力できる年代であったのではないかと感じました。
- (郷間委員) 3 ページで「夫は働き、妻は家庭」という項目で「賛成」と「どちらかといえば賛成」が合わせて 30%程度です。しかし「女性も働いたほうがよい」という項目では、「賛成」が 10%程度になります。この点は差があって興味深いと思いました。
- (久保田委員) 7 ページの家庭での男女共同参画の項目ですが、「掃除・洗濯」など一時的に終わるものよりは「育児・しつけ」など長期的なものに対して夫の参加を望んでいる結果があります。施設に親を預けていて家族が面接に行く場合、面接者は圧倒的に女性が多くなっています。夫の親であるのに、妻が会いに来て世話をしています。そういう点で、女性の負担は大きいです。男性は、

- 自分の親の面倒を妻に望んでいる結果が如実に出ていると感じました。
- (黒須委員) 社会的な構造ということに行き着くのではないかと感じました。
- (陣内会長) 男女共同参画ということを考えるときに、社会的な構造を変えないとどうしようもないという話が、以前にもあったように思います。これは下野市のプランですが、下野市だけで手に負える問題ではないものもあります。そこが、男女共同参画というプラン策定の難しさでもあります。
- (横溝委員) 家庭での役割ですが、専業主婦とパートタイムで働く女性では、違うと思います。しかし家事は女性が行うもの、という固定意識や考えが根強いです。専業主婦とパートタイムで働く女性など立場が違う場合は、全てをまとめて考えることはできないと思います。現在、若いお父さんは、土日に子どもと非常によく接していますし、ずいぶん改善してきています。主婦の方も働きに出ている人が多くなっており、喜ばしいことと思います。しかし、下野市単独では難しいですが、福祉の方で、子どもたちの支援を充実させていかなければならないと思います。
- (山口委員) 男女共同参画について、知らないという方が多いということですが、自分に置き換えて考えていないのではないかと思います。研修や講習のときでも、言われてみて初めて暴力や差別に気づく方は多いです。現実にある問題を知らないでいるから関心もない、ということがあるのではないかと思います。
- (高山委員) 今回のアンケートを実施したことによって、男女共同参画が浸透したならば、よいことではないかと思います。40%の回収率は残念に感じましたが、アンケートの回収率は全般的にこの程度かな、とも思います。下野市で男女共同参画の1回目のアンケートを行えたということは良かったです。今回のアンケートをもとに討論が進めていけると思います。
- (陣内会長) アンケートは3町合併後、下野市として今回が初めてですか。
- (事務局) そうです。
- (陣内会長) アンケートの結果は公開されますか。
- (事務局) 広報誌5月号に掲載準備中ですが、6月は男女共同参画週間もあるので、5月号、6月号の2回に渡って掲載予定です。また、ホームページでも情報を掲載していきます。
- (楡木委員) 結果は載せるということですが、事前にアンケート実施の連絡も公開しましたか。
- (事務局) 広報誌に掲載しました。
- (渡辺委員) 結果報告書の自由意見について、興味深く見ていました。たとえば、80ページ<男女が安心して健康に暮らせるまちづくり>ですが、「男女共同参画も大事だと思いますが、子どもをもつ親に親のあり方や責任を教育するほうが先だと思います」という意見、それから79ページ(男女の性差の尊重、

男女共同参画はそれから)というところにまとめられている意見など、私自身も少し感じていたことではあります。市のアンケートとは別に、自由意見のところに本音を書いてくることがありますので、市に対しては厳しい意見もありますが、真摯に受け止め、検討課題として入れておいたほうがよいのではないのでしょうか。

(陣内会長) ご指摘の通りです。数量的な分析では問題にならないのですが、質的な分析で言えば、自由回答は重要です。意識が高い人ほど、自由解答欄に記述してくれます。自由回答も大切に検討していくとよいと思います。

(黒須委員) 5 ページの子どもの育て方など、年代による意識の差がかなりあると思います。

(陣内会長) 委員会では、問題意識が高い委員が集まっているので議論になりますが、地域に帰ったときに議論にならない可能性があると思います。私もそういう経験があります。休憩を挟んで、自由討論をしたいと思います。

3) 自由討論

(陣内会長) 今回の自由討論の内容から、次回の議題となる骨子を事務局で策定されます。下野市の地域性を見たり、日常の生活で感じたり、経験したりしていることを考えながら、まず下野市で解決すべき課題は何か、男女共同参画プランを進めていくときに、どのようなハードルが考えられるか、意見交換をしながら書き出していきたいと思います。何が正解で何が不正解ということはありません。遠慮しないで発言していただければと思います。では、5分程度時間をとりますので、考えをまとめてみてください。

(陣内会長) では、どなたからでも、どうぞ。

(山口委員) 結果報告書の 78 ページの自由回答に、「男女共同参画とは名ばかりで、下野市では男社会の面が多々ある」という意見があるのですが、PTA や自治会の活動に参加するのは女性であるのに、会員名簿に登録する名前は男性になっています。世話をしてくれている人(女性)に「世帯主の名前を書けばいいんですよ」と言われ、女性は名前が出せないのかと複雑な思いがしました。

(渡辺委員) 私の地区では逆で、実際の活動に女性が出てきたら、名前は女性自身を出すのが当然だ、という感覚です。自治会長の割合は男性 3 割、女性 7 割ぐらいだと思います。

(陣内会長) 下野市のなかでも地域差があるということのようです。活動をしているのは女性であるのに、名前が出るのは世帯主の男性の方であるということは、何を表しているのでしょうか。この点について、ある地区では問題にさえもな

りません。

- (高山委員) PTA の活動をしていましたが、昔からの風潮で世帯主が役員になっていました。しかし、年々女性が PTA に参加するようになり、この点が問題になったことがあります。夫は PTA に参加せずに、実際には妻が PTA 活動をしている、とのことでした。そのため、南河内地区の吉田西小学校では、皆さんの意見から、実際に活動される方の名前で登録しましょう、となりました。現在は、PTA の役員名簿を見ると、妻の名前で登録されています。
- (渡辺委員) 公共的な部門への市民参画比率は女性が主体です。グリーントウン地区でも PTA の会長は全て女性でしょうか。女性のほうが市民活動への参加意識が高いと思います。
- (山口委員) 私の地域では、PTA に女性を選出しようとする、周りから不満が聞かれました。
- (陣内会長) 女性の意識が問題、という部分もあるのでしょうか。各委員のように男女共同参画に関心がある方々ばかりではないので、地域差、個人差があるように感じます。男女共同参画社会とはどういうものか知らないため、女性は関心が低いのでしょうか。
- (山口委員) 女性が女性を見る目が厳しいです。男性は、「男性だから、女性だから」ということは言いません。
- (長井委員) それは違うと思います。クラブ活動の会長となるような女性は口も立つので、男性が言い込められると、「女のくせに」と発言される風潮はあります。こういった発言をされるのは、年齢の高い方に多いです。若い方からはあまり聞かないです。
- (渡辺委員) そのような発言をされる方は、地域のオピニオンリーダー的役割の方が多いのでしょうか。
- (長井委員) ええ、そうです。男性が女性を敬遠する部分があると思います。
- (渡辺委員) 下野市でも地域差が、かなりあるように感じます。
- (久保田委員) 国分寺地区のことを話しますと、去年は PTA 会長が女性でした。今市市の女兒殺害事件があつてから、パトロール活動を強化しました。働いている女性で会長をしてくれる方は、他の忙しい人の気持ちも分かるのでよい気がします。忙しい人ほど、働いたりいろんなところに顔を出したりしてくれます。
- (高山委員) 私は吉田地区、もともとの南河内地区で、グリーントウン地区と一緒になったのですが、以前は男性ばかりの PTA というのが当たり前だと考えていました。しかし、南河内地区の住民は、グリーントウン地区のよい影響を受けて、PTA の役員は大半が女性から出るようになりました。
- (渡辺委員) グリーントウン地区は女性の力が強いです。下野市議員のなかに女性は 3 人いますが、その中の 2 人はグリーントウン地区です。

- (陣内会長) 男女共同参画の大きな課題は、地域差かもしれません。これは、ほかの市町村と違う特徴かもしれません。もうひとつは、ほかの市町村でも共通していると思いますが、女性が女性を見る目が厳しいという課題、また年齢が上の男性に多い、「女のくせに」という発言です。
- (久保田委員) 昨年まで学校の校長や教頭の女性割合は栃木県が1位であったのに、今年は順位が下がっていました。学校の先生は産休も取得しやすいので、子どもを生み、育てながら働くというよい見本でした。下野市でも女性の登用を積極的にして欲しいです。
- (小幡委員) 小学校では1、2年生の間は女性の教員が担任することになっているという話を聞いて、疑問に思いました。
- (長井委員) 子どもに手がかかる時期なので、男の先生では対応できないという固定観念があるのではないのでしょうか。そのため、決まっているということではなく、女性の先生が多いのだと思います。
- (陣内会長) 男女共同参画に限らないでしょうが、学校現場をどう考えるか、という課題がありそうです。隠れたジェンダーという問題があり、子ども達は影響を様々に受けます。学校の影響も課題として考える必要があります。
- (渡辺委員) 学校では、男の子でも女の子でも名前は「さん」づけで呼ぶのでしょうか。「くん」づけは無くなったのですか。
- (小幡委員) 「さん」づけになっています。
- (黒須委員) ランドセルの色にしても、みんな好きな色を持っています。たとえば、男子生徒が黒でないランドセルを持っていたらいじめにあった、という話を以前は聞きましたが、最近は聞きません。学校での男女共同参画の意識が改善しているように思います。
- (山口委員) 会議の場では女性は発言されません。会議が終わってから、駐車場で議論になることがありました。なぜ会議の場で言わないの、という話になると、「私なんか意見は言えない」となります。女性も自分の意見が言えるようになることが重要です。
- (長井委員) 女性の場合は、あとが怖くて意見が言えないのではないのでしょうか。その意見が正しい意見でも、反論は出てきます。自分の意見に自信が持てないのではないかと思います。
- (陣内会長) なぜ、このようなことになるのでしょうか。
- (郷間委員) ひとつは国民性、もうひとつは教育の方法ではないかと思います。たとえばアメリカでは、授業でディベート教育をかなり行っています。1つの議題でも徹底的に議論します。反論されることもありますが、自分の意見は全部言う、という土壌があります。
- (陣内会長) 公の場での意見提示は、男女共同参画を考えると基本的なところですよ。これ

も地域性がありますか。

- (郷間委員) 多少あるのではないのでしょうか。また、若い人たちと交流する機会がありますが、年代によって違うように感じます。
- (黒須委員) 男女共同参画という言葉ですが、「参画」を、四角、三角の「三角」と思っていた人がいました。
- (長井委員) 同じことを経験したことがあります。広報などでの啓発が重要です。
- (陣内会長) 男女共同参画を分かりやすく伝える、理解してもらえる努力が必要ですね。
- (横溝委員) 男女共同参画の取り組みを市民はさほど重要視していません。満足度平均が - 0.5、重要度が 0.5%ということなので、啓発活動が今後、下野市で行うべき事項ではないかと思えます。問題として捉えていないということなので、生涯学習などで講習を行えばよいと思えます。
- (陣内会長) 大学生などをみると、意外と男女共同参画意識があるように見受けられる部分もあります。男女共同参画を知ってもらうことは重要ですが、まちづくりのテーマのなかでいえば、かなり難しいです。自分の身にかかってくることに対しては敏感ですが、自分の身にかかってこないことに対してはかなり鈍感です。共感してもらうレベルにするには、かなり難しいです。みなさんのように、分かっている方々が知恵を絞って行政と協力していかなければならないと強く感じています。
- (郷間委員) 男女共同参画を浸透させていくときに、家庭、地域、職場などがありますが、私は家庭が一番よいと考えています。
- (渡辺委員) 啓蒙活動は、長期的に行ったほうがよいと感じます。男女共同参画プランはなんでもかんでも載せていくと分かりづらくなってしまいます。
- (陣内会長) 今、課題解決に対する方法論が出てきていますが、今のまちづくりの分野では政策マーケティングということがいわれています。各委員は嫌がるかもしれませんが、男女共同参画社会を理解してもらうために、マーケティングという感覚で考え、啓蒙することも重要かもしれません。それを一生懸命やっているのは青森県です。県が県民に売り込むというスタンスも必要かもしれません。
- (上野委員) 講演会など行っても成果があるのか疑問に思っていましたが、アンケートをとってみると少しずつ(関心度の) 数字は上昇しています。
- (陣内会長) 長期的な視点で啓発する必要があります。場面、場面で(実効性を) 評価して、達成状況を確認することが必要です。
- (渡辺委員) 行政主体の有名人を招いての講演会などは、出席状況が非常に悪いです。前回の江森さんの講演も団体から要請があったため出席しました。自ら行きたいと思って行った人は少なかったのではないのでしょうか。
- (陣内会長) 啓発活動の方法も課題としてあります。講演会をしても、広報しなければ成

果はあがらない、ということになります。

- (小幡委員) 以前に、男女共同参画の寸劇をしたことがあります。男女共同参画をわかりやすく伝えるために行いましたが、参加率は割と良かったです。
- (横溝委員) 寸劇は分かりやすいですし、みんなで作る過程でも男女共同参画の意識変革が期待できます。
- (渡辺委員) 社会的構造によるものは、ここでは取り上げないほうがよい気がします。たとえば、子どもができたなら育児休暇を取りましょうといっても企業の問題となってしまいます。
- (山口委員) 下野市にも工業団地があるので、実現する、しないということまで求めるのは難しいと思いますが、企業意識を変えていく努力は必要ではないでしょうか。
- (渡辺委員) 市民レベルの啓蒙活動と社会レベルの啓蒙活動の2つがあると思います。
- (陣内会長) 啓蒙活動も誰がやるかということがあります。行政が啓蒙活動をするのか、市民がするのか、企業がするのか。全てを市民レベルで行う必要はないと思います。
- (渡辺委員) 順番や手順も考慮する必要があります。啓蒙活動として、いろんなことを掲げても、「そうはいってもできないよ」と思われてしまうと、何もしてもらえないのではないのでしょうか。
- (横溝委員) 広報誌では、環境については啓蒙活動として毎月掲載されています。同じように男女共同参画アンケートについて掲載する際に、コラムのようなコーナーを設けて啓蒙することも面白いのではないのでしょうか。
- (渡辺委員) もし仮に、今回の配付資料をそのまま掲載しても、市民は読まないと思います。
- (陣内会長) 下野市では、男女共同参画のみを扱った広報誌は存在するのでしょうか。
- (事務局) ありません。
- (中川委員) 県では、男性が育児休暇をこのように取っています、という事例報告をしています。市民レベルでの啓蒙活動であれば、テーマを絞って、重点的な事項について絵などを使ってわかりやすく説明してはいかがでしょうか。
- (陣内会長) 緊急性に基づいて順番に、ということですね。
- (黒須委員) 男女共同参画のビデオを見たことがあります。マンガもあったように思います。学習のきっかけとして、活字よりもビデオやマンガを活用するほうがよいのではないのでしょうか。
- (山口委員) パーセンテージは少ないですが、DVに関係がある人もこの地域にいます。栃木県(パルティ)や小山市などでは対応しています。悩み事相談を民生委員の方がしてくださっていますが、下野市在住の人が限定となっています。家庭内のことを相談するのに話しづらい、という意見があります。

- (横溝委員) 民生委員として活動していますが、地域内とは限定していません。守秘義務もありますが、(相談者は)知らないところで相談したいことと思います。
- (陣内会長) 相談する方も勇気のいることなので、DVで悩んでいる方が相談できる体制作りを改善してほしいということですね。緊急性の高いことです。また、これまでに、下野市内での地域差、男の敷居・女の敷居、学校の環境、男女共同参画の伝え方、啓蒙を進める際には戦略的に行う必要があること、男女共同参画の学習のきっかけづくり、緊急性が高いものに対する体制づくりなどが課題としてあがりましたが、これが全てではありません。その他、アンケート結果からも出てきています。これ以外にも皆さんから意見を聞かせていただきたいと思います。
- (楡木委員) 地域差ということが出てきていますが、今の議論だけでは具体的に捉えることができません。どこに焦点を当てて活動すべきかは難しいことですが、重要なことです。
- (渡辺委員) 地域差について、グリーントウン地区は男女共同参画が進んでいるといいましたが、中には(違う意見を)言う人もいます。オピニオンリーダーとなる年齢の高い人が、理解していないことが問題という話もありました。やり方としては、そのような人は無視して自分たちでやっていこうということもできますが、このような人がたくさんいれば、行政の対応が必要になってくるように思います。

その他

- (陣内会長) 次回以降のスケジュールを事務局の方、お願いします。
- (事務局) 次回は、委員会の皆様のご意見とアンケートから、プランの骨子を作成します。次回委員会では骨子を検討していただき、その後、素案の検討をお願いしたいと思います。その間に、パブリックコメントを実施したいと考えています。11月中旬にはおおむね素案が確定する予定です。
- (陣内会長) パブリックコメントの方法について検討しておかないと、あまり意見が集まらないのではないかと懸念しています。
- (事務局) 広報誌でもホームページでも予告をしたいと考えています。
- (陣内会長) 本日の委員会での議論で感じたのですが、委員の皆さんに広報部会となっただきたいと思います。
- (山口委員) プランを作る段階では関係ないかもしれませんが、行政でしかできないこともある一方で、市民ができることもあると思います。
- (陣内会長) プランが策定されたときに、実行する体制作りを今から考えておいたほうがよいと思います。
- (山口委員) フィンランドに研修で行ったときに、地域に開かれた施設を見学しました。

いつでも気軽に入ってお茶をしたり、サークル活動ができるようになっていました。民間がやっている NGO でした。

(陣内会長) 大学の前の空き店舗を利用して、日替わりでレストランをしています。市民が主体的にやっていく仕組みづくりをまじめにやっていくのであれば、市民ベースの活動を作っていかなければならないと感じています。啓蒙においては、量と質が必要です。市民感覚で行政と一緒に取り組んでいただきたいと思います。

(楡木委員) 啓蒙は、委員会としてすべきだと思います。

(陣内会長) 有志のかたに負担がかからないように、委員会の皆さんでやりましょう。

以上